

# 農楽体験～自然を知る、食を知る、生物を知る～

国立大学法人

農学

高知大学 農学部 及び附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター

会期：2010年8月19日（木）13：00～8月21日（土）14：00 2泊3日

地球環境、食の安全安心、健康等への関心が高まる中で、総合科学（総学）、応用科学（実学）として地域農業をリードする農学は、農を通して、人と自然との関わりや人々の活動が自然環境に及ぼす影響を、多様な視点から捉えるという役割も担っています。

今回のキャンプでは、最新の知識と技術の適用場面である農業現場に身をおき、農業および農業技術に関する最新のトピックを学ぶとともに、農作業を通して高知の自然を体感し、物的豊かさや効率性を重視する社会の中での農の意義・役割と課題を理解するとともに、人と自然環境・地域資源との持続的で調和した関係について考えます。



## 会場

国立大学法人 高知大学 農学部  
及び附属暖地フィールドサイエンス教育研究センター  
高知県南国市物部乙200番地  
（JR「高知駅」より路線バス約35分。  
JR「土佐山田駅」より車約20分）  
URL：http://www.agr.cc.kochi-u.ac.jp/  
宿泊場所：高知大学厚生会館（敷地内）

## 募集人数

15名

## キャンプのプログラム内容（予定）

(1)「高知県産褐毛和種牛」のはなしと飼育管理作業体験  
高知県にしかない和牛「高知県産褐毛和種牛」（土佐の赤牛）について学び、実際に飼育管理作業を行います。また、初日講師達との交流夕食会で、その肉を試食する予定です。

(2)「稲作」のトピックと水稻の収穫・調整作業体験  
高知県は水稻二期作が可能ですが、近年ではその姿はほとんどみられません。高温多雨で台風が常襲する西南暖地の稲作について学び、収穫から白米になるまでの稲刈・脱穀・（乾燥）・籾すり・精米の各作業を体験します。また、こうして出来上がった白米を、3日目の昼食として竹筒炊飯します。

(3)園芸栽培におけるトピック  
野菜作は高知県農業の基幹部門であり、農業粗生産額の6割弱を占めています。その中核は、冬季温暖多照という気象条件を活かした冬春野菜を生産する施設園芸です。この施設野菜園芸の最新のトピックを学びます。また、高知県に存在する、土佐文旦、新高ナシ、ボンカン等地域特産品の果樹について学びます。

(4)大学院生と共に学ぶ農業実習  
高知大学大学院農学研究科で学ぶ大学院生が、自分たちの研究テーマに沿った高校生のための農業実習を企画し、共に学びます。6～8のプログラムを予定しています。

(5)「圃場」の中の虫たち  
化学農薬依存型の農業は、「圃場（田や畑）」内の作物・家畜以外の生物の生息密度を下げることで、虫や病気等の害を防除してきましたが、環境問題や循環型社会等への関心が高まるなかで、「圃場」における人と生物の関係が大きく変化しています。虫の採集によりそれを確認します。

## スケジュール（予定）

### 1日目 8月19日（木）

13:00 高知大学農学部集合  
13:10～ 開講式、プログラム説明、講師紹介 等  
13:30～ 講義「農業を通してみる人と自然の関係」  
14:30～ 高知大学フィールドサイエンスセンター見学  
16:30～ 講義「高知県産褐毛和種牛のはなし」  
17:30～ 家畜管理（牛舎）  
19:00 講師等との交流会

### 2日目 8月20日（金）

8:30～ 講義「稲作のトピック」  
9:30～ 稲刈り・脱穀・籾すり・精米作業の体験  
12:00～ 昼食  
13:00～ 講義「果樹作のトピック」  
14:00～ 講義「野菜作のトピック」  
15:00～ 大学院生と共に学ぶ農業実習 part1  
16:30～ 大学院生と共に学ぶ農業実習 part2  
18:00 宿舎へ移動 入浴・夕食後再び農学部へ  
19:30～ 高知大学農学部に住む虫たちの夜間採集

### 3日目 8月21日（土）

8:30～ 採集した虫たちの分類・整理-害虫と益虫-  
9:30～ 講義「新しい人と虫の関係-IBMからIPMへ」  
10:30～ 講義「農産物の有する機能性物質と新たな活用法」  
11:30～ 竹筒ごはん炊飯と昼食  
13:00～ ディスカッション-これからの人と食と自然-  
14:00 閉講式、解散

1、2日目の夜は宿舎でミーティングを行います。

## プログラムの関連図書、Webサイト紹介

農業（農学）の入門書：  
「農学基礎セミナー」シリーズ  
出版社：農山漁村文化協会

「基礎シリーズ」  
出版社：実教出版